

- 1 MFICU・在宅支援病床(3E)・有料個室の紹介
- 2 シリーズ 大阪母子医療センターの高度な医療
低体温療法、小児救命救急センターの運用開始
- 3 がんばり屋さん
- 4 患者支援センターからのお知らせ、イベント紹介

母性西棟の MFICU が新しくなりました

総合周産期母子医療センターである当センターには、MFICU（母体胎児集中治療室）が、9床あります。母性西棟に6床、分娩部に3床でしたが、2018年12月から母性西棟に9床となりました。部屋や廊下も改装しリニューアルしました。

合併症妊娠や切迫早産、妊娠高血圧症候群、胎盤位置異常、胎児疾患などのハイリスク妊娠や出産後の大出血など、母子への的確な観察や対応を心掛け、医師と協力し治療・看護を提供しています。



(母性西棟看護師長 椿野 幸美)

在宅支援病床をリニューアルしました

在宅医療を望み、目指す患者さんとそのご家族の方の力になれるように、3階東棟には8床の在宅支援病床があります。医療的ケアの指導や家族の方の支援をし、ケースワーカーや保健師・在宅担当心理士などともに地域と連携を取っています。

12月に、病棟の1室をカーテン付きで木目調の部屋にリニューアルしました。天井は空色に、壁紙は緑の葉っぱ色にしました。また、浴室も同時にリニューアルし、広い浴室で重症心身障害児の方でも専用ストレッチャーでお風呂に入れるようになりました。

地域包括ケアの概念は単に高齢者だけのものでなく、様々な支援を必要としている子どもと家族がその人らしくイキイキと暮らしていくためのものだと考えます。子どもと家族の方の笑顔のために、当センターとしての役割を十分に発揮できるようにしていきたいと考えています。

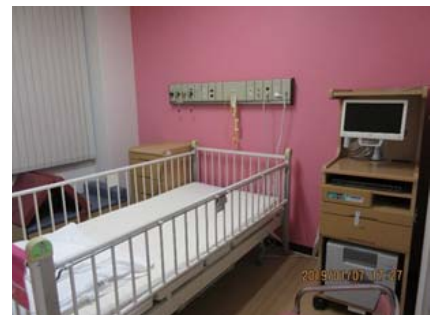


(3階東棟看護師長 花井 貴美)

小児棟に有料個室ができました

小児棟には各病棟に個室が2～5室あります。これらの個室は感染症の患者さんに優先的に使用していましたが、この度、壁紙と床を改装し、2月から3階東棟1室、4階東棟1室、5階東棟1室、5階西棟2室の計5室を有料個室として運用することになりました。個室料金は1日1室7,000円＋消費税(テレビ、冷蔵庫料金込み)です。

有料個室のご希望は患者支援センター(入退院センター)でお聞きします。ただし、部屋数に限りがあるため、ご希望に添えない場合や、患者さんの治療等やむ得ない事情で転出をお願いすることもあります。できるだけたくさんの希望者に利用していただけるよう調整していきたいと思えます。



(患者支援センター副センター長 田家 由美子)

シリーズ 大阪母子医療センターの高度な医療

低体温療法

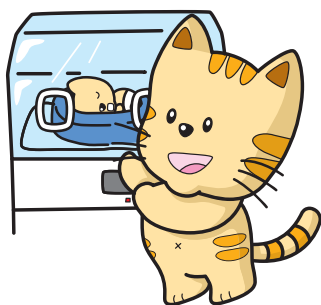
生まれたときに呼吸ができない、全身がぐったりしている、心臓や神経系の働きなどが悪い、などの状態である場合を新生児仮死といいます。新生児仮死は、常位胎盤早期剥離、母体の血圧低下など、胎盤血流が何らかの理由により遮断された場合や、赤ちゃん自身に疾患がある場合におこります。出生前から予想することは困難で、どのような分娩でも発生しうると言えます。低酸素性虚血性脳症は、この新生児仮死が原因となって、脳の低酸素と虚血による神経症状を合併した状態をいいます。意識障害やけいれん、反射の異常などの症状をみとめ、脳性麻痺やてんかん、精神運動発達遅滞などの後遺症を残したり、最重症の場合は死に至ることもあります。

このように、非常に重症といえる新生児の低酸素性虚血性脳症ですが、現在、有効とされる唯一の治療法は低体温療法です。赤ちゃんの全身を冷却し、低酸素、虚血の影響によって起こる神経細胞障害を最小限に食い止め、脳保護を図る治療が低体温療法です。冷却は、出生後 6 時間以内に開始し、専用の医療機器を使って全身を冷却し、深部体温を 33-34℃に維持するようにします。冷却開始後72時間で復温を開始します。復温は 1 時間に 0.5 度を超えない範囲で徐々に平常体温(36.0 ~ 37.0℃)に戻します。この間も、絶え間なく、呼吸、循環などの全身管理を行っていきます。このような高度の医療を行える新生児集中治療室は限られています。当センターでは、

院内、院外で出生され、低酸素性虚血性脳症が疑われる赤ちゃんたちをすみやかに収容し、そのうち年間約 5 例前後に低体温療法を行っています。

全身状態が落ち着いたところで、頭部 MRI などの画像検査や脳波検査を行い、脳症の影響や予後を予測します。退院後も、低体温療法を受けられた患者さんの成長、発達のフォローを定期的に行い、新生児科のみならず各専門分野と連携しながら必要な支援を提供させていただいています。

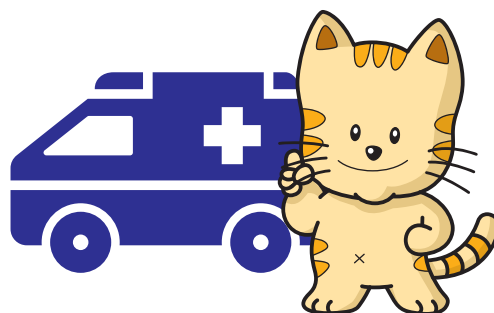
(新生児科主任部長 和田 和子)



2018年
11月1日
から

小児救命救急センター の運用を開始しました

大阪府から認定を受け
小児救命救急センター
(3次救急医療施設)として
救急搬送の患者さんを
積極的に受け入れています



がんばり屋さん

島田 沙和 さん

私は、2001年の9月7日に母子医療センターで生まれました。

母は私と妹を妊娠中に双胎間輸血症候群と診断され、20週の際に母性棟に入院、双子だった事もあり、26週を超えられなければ赤ちゃんはあきらめないといけなかもしれないと言われたそうです。26週を超えて喜んでいた矢先の、26週と5日目、妹の状態が悪くなったため、緊急の帝王切開で生まれました。私が806g、妹が868gの超未熟児でした。

その時の事はさすがに覚えていませんが、両親が沢山写真を撮ってくれていたり、NICUの看護師さんと一緒に日記をつけてくれていたりして、今でもたまに家族で読み返したりしています。生まれてすぐの私達はとても危険な状態だったそうですが、両親の写真のコメントや、皆が書いてくれている日記の文章はとても明るく、希望にあふれています。沢山の人々に助けられて今の私たちがあるのだと感じます。

そして、私も妹も弱視である事以外は大きな障害もなく元気に過ごしています。

未熟児網膜症のため、特に眼科には長くお世話になりました。中学3年の春にわたしが柔道を始めたいと言った時、主治医の初川先生がとても心配してくださいました。双子の妹も陸上競技を頑張っていますが、初川先生をはじめ、眼科のスタッフの皆さんがいつも応援してくれていて、本当に感謝しています。

産まれた時から体が小さく、今でも体も声も小さいと言われる私ですが、小さい頃から体を動かすことがとても好きでした。中学からは盲学校に通っていますが、同じく弱視の双子の妹もいつも競うようにして色んなスポーツをしています。体を動かした後のスッキリする感じがとても好きです。小学2年の時に友達に誘ってもらって始めたダンスは中学2年生まで続けましたが、高校生になった今でも体が柔らかく、柔道をする上でもとても役に立っています。また、小さい頃から負けず嫌いで、どんな小さい事でも双子の妹には勝とうとして妹を困らせています(笑)。

柔道をはじめから、自分自身にも、周りにも色々な変化がありました。一番の大きな変化は、去年、視覚障害者柔道の女子48kg級の日本代表選手に選ばれ、アジアパラ競技大会、世界選手権へ出場できたことです。どちらの大会も1勝することはできませんでしたが、とても貴重な経験をさせて頂きました。今年も国際大会へ出場が決まったので、次は1勝出来るよう、努力を続けていきたいと思っています。実力はまだまだですが、目標である2020年東京パラリンピックへ出場できるよう、頑張りたいと思います。



募集中

がんばり屋さんのコーナーでは、登場して下さる方を募集しています。母子医療センターで治療を受け、現在各方面で頑張っている方をご紹介ください。自薦・他薦は問いません。詳しいことは、母子保健調査室までお問合せください。

電話：0725-56-1220（内線3241） E-mail：kikakushi@wch.opho.jp



患者支援センター からの お知らせ



薬剤師による持参薬確認を行っています



患者さんは、入院されるときに、すでにいくつかのお薬をのんだり使ったりしている場合があります。その薬を、入院中も続けて使用する必要がある場合もあれば、治療上、中止・変更する必要がある場合もあります。主治医の判断に役立てるため、薬剤師はどのようなお薬を使用しているのかを確認し、その正確な情報を電子カルテ上に登録することで、主治医に報告しています。

確認は、患者支援センターや病棟において、薬剤師そのもの確認しながら、患者さんまたはその保護者と対話しながら行います。薬袋やラベル、お薬手帳等の情報も重要です。その際に、「投与量が正しいか」、「同時に使用しないほうがいい薬剤がないか」なども確認しています。「薬剤師と持参薬の確認をしましょう」と言われたら、順番待ちで少しお待ちいただくことがあるかもしれませんが、入院中の治療に役立つことなのでご協力をお願いします。



イベント報告



12月21日(金) センタークリスマス会開催

阪神タイガースの北條選手やおかあさんといっしょ第18代うたのお姉さんのつのだりょうこさんなど多彩なゲストをお迎えし、楽しいクリスマス会になりました。

北條選手から当センターにご寄附をいただき、倉智総長から感謝状をお渡ししました。

1月9日(水) 埼玉西武ライオンズ増田投手来院

埼玉西武ライオンズ増田投手が当センター新生児棟と小児棟(5階東棟・5階西棟)を訪問してくださいました。

増田投手から当センターにご寄附をいただき、倉智総長から感謝状をお渡ししました。



基本理念

母と子、そして家族が笑顔になれるよう、質の高い医療と研究を推進します

基本方針

- ・ 周産期・小児医療の基幹施設として高度で専門的な医療を提供します
- ・ 患者さんとの相互信頼の立場に立った医療を行います
- ・ 地域と連携して母子保健を充実させます
- ・ 母子に関する疾病の原因解明や先進医療の開発研究を進めます

地方独立行政法人大阪府立病院機構
大阪母子医療センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840
電話 0725-56-1220
FAX 0725-56-5682
<https://www.wch.opho.jp/>